

令和2年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490600440	事業の開始年月日	平成30年4月1日
		指定年月日	平成30年4月1日
法人名	株式会社 葉山		
事業所名	グループホーム ひばり苑 花見台		
所在地	(〒240-0017) 横浜市保土ヶ谷区花見台4-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果 市町村受理日	令和3年8月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://hibarien2018.wixsite.com/hibarien">https://hibarien2018.wixsite.com/hibarien</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>2018年4月に開設し3年目のグループホームです。 施設の近くには保土ヶ谷公園があり、お時間があるときは職員と散歩などに出かけられる利用者様も多いです。 また、当施設に入居されている利用者様は近隣に馴染みのある方が多く、昔から保土ヶ谷区内に住まわれていた利用者様も大変多いです。</p> <p>当施設での施設生活については、入居されている利用者様が日常生活を普通に生活できるように、利用者様個々様がご自身のペースで生活できるように支援しています。</p>
--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年4月13日	評価機関 評価決定日	令和3年5月30日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> 事業所は、JR横須賀線保土ヶ谷駅と相鉄線星川駅からバスで、約10分～15分の花見台バス停から徒歩2分足らずの場所にある。平成30年4月に開設された。軽量鉄骨の3階建ての建物で1～3階の3ユニットのグループホームである。事業所のすぐ近くには、野球場やサッカー場のある県立保土ヶ谷公園がある。新型コロナ禍で、活動が制約されているが、2回目の緊急事態宣言解除後は、感染対策を行ったうえで、保土ヶ谷公園への散歩を再開している。また、少人数に限り、短時間入り口での面会も再開している。</p> <p><b>【尊厳のある生活を支援】</b> 事業所理念として「人が尊厳をもって普通に生活ができる世界を創造すること」を掲げている。事業所では、利用者は「さん」付けで呼ぶこととしている。介護記録などは、プライバシー保護のため、利用者を名前ではなく部屋番号で記載している。フロアで介護記録を記載する場合は、周辺に十分配慮して行っている。利用者不在の居室に入室する場合も、本人に確認をとっている。また、トイレ誘導の際は、小声で話しかけ、失敗した場合は、周りに気づかれないようにさり気なく対応し、羞恥心に配慮するなど、職員は、礼節のある接し方で、利用者の尊厳やプライバシーに配慮したケアを実践している。</p> <p><b>【安心して生活できる医療体制】</b> 全員が、内科の2つの協力医のいずれかをかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受診している。介護職員や非常勤職員の看護師が、体調、服薬や気になることなどを質問事項記入書にまとめ、診察の前に医師に渡している。診察結果は、診察に同席した看護師が記録し、事務所に掲示して情報共有している。また、今後は薬剤師にも情報共有することとしている。眼科、皮膚科などの専門医の通院は、原則、家族が付き添っている。受診情報は、職員が聞き取り、連絡ノートや介護記録で情報共有している。医師、看護師、薬剤師、職員が効率的に連携し、利用者が安心して生活できる医療体制となっている。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム ひばり苑 花見台
ユニット名	あすなる

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに事業所理念を掲載し職員一同共有できるように努めている。	事業所理念の「人が尊厳をもって普通に生活ができる世界を創造すること」は、「尊厳のある生活」の重視など、6項目からなる運営理念を基に、法人が作成したものである。理念は、事務所とフロアに掲示して周知している。理念の他、「配慮ある優しい気配り(声掛け)をする」「一緒になって楽しく過ごせるようにする」などの職員心得を策定し、周知している。職員は、利用者に自分のペースで生活してもらえるよう支援している。	事業所では、事業所理念を、分かりやすいものに見直したいと考えています。見直しに当たっては、職員全員が共有できる理念の構築が期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は町内会のお祭りや行事ごとはほとんど中止となっており、地域の方の交流はほとんどなかった。	自治会に加入して、回覧板で地域の情報を得ている。散歩の時に地域住民と挨拶して交流している。新型コロナ禍以前は、自治会の餅つきや、祭り、運動会などの行事に利用者と職員が参加していた。一方、事業所主催の夏祭りには家族の他、地域の盆踊りのボランティアが参加していた。現在、新型コロナ禍で地域交流は中止しているが、終息後は、自治会の行事には規模の大小を問わず積極的に参加していきたいと考えている。	

3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は地域との交流ができず、運営推進会議も書面での開催を行っていたためほとんど地域貢献はできなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は二ヶ月に一回開催していますが、今年の開催は書面での開催となっている。 開催報告書では施設の活動状況を報告している。	運営推進会議は、2か月ごとに利用者、自治会長、民生委員、地域包括支援センターの職員が出席し、開催している。今年度は、新型コロナ禍で書面開催としている。会議では、活動報告、事故・ヒヤリハット報告や情報・意見交換を行っている。落葉の事故報告をした際、出席者から「投棄に関する職員の意識を高めて欲しい」との意見があり、職員に周知・徹底した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時や不明点がある場合は電話やメールにて連絡を行っている。	区の高齢・障害支援課からは、運営推進会議の開催報告の持参や、利用者の要介護認定申請代行で区役所を訪問した際に、助言や指導を受けている。区的生活支援課とは、電話で生活保護受給者の状況に関する情報共有や相談をしている。今年度は、新型コロナ感染予防に関する備品の在庫管理について、区や市、県などと連絡を密に取り合っており、マスク、フェイスシールド、消毒液、手袋、ビニールガウンの提供を受けた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に二回、身体拘束についての研修を行い、研修記録を提出している。参加できなかった職員には資料をお渡しし、研修記録を提出している。また、3ヵ月に一度委員会を開催し検討会を行っている。	身体拘束適正化の指針を定め、身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催している。委員会では、指針の確認、委員会の活動内容や、マニュアルの改訂などについて話し合っている。年2回の研修では、身体拘束に当たる事例や「緊急時にやむを得ず」身体拘束を行う場合の3原則などを確認している。玄関は施錠しているが、フロア出入り口は施錠していない。外出願望の強い入居者には、職員が付き添い対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束についての研修と合わせて年二回の研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中には後見人制度を利用している方もいる。研修を行うまでは至っていないが、現場の職員に説明等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の契約時に料金などを含めた重要説明事項等の説明を行っている。説明後はご家族様に同意書をいただいている。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時や面会時にご家族様に意見をいただき、反映できるものについては参考にしているが、今年度は面会制限等あり話し合いの場などを設ける機会が少なかった。</p>	<p>家族の意見・要望は、夏祭りやクリスマス会など家族の参加する行事(今年度、家族の参加は中止)、面会や電話連絡で聞き出している。外部評価の家族アンケートで「利用者の日常生活をもっと知りたい」との要望があり、職員からの提案も踏まえ、利用者の写真付きの年賀状や、花見の時の写真を家族に送付した。</p>	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアカンファレンスを毎月実施しており、その中で現場の業務のことやお客様の情報について意見交換している。また行事などの事務連絡も行っている。	職員の意見・提案は、日々の会話や毎月のフロアカンファレンス、個人面談などで聞き出し、運営に反映している。職員の意見・提案は、管理者が法人の代表者に伝えている。管理者は、利用者が生活しやすく、職員が働きやすい環境を整備するため、職員の意見を意欲的に聞き出している。職員から「日によって勤務するフロアが変わる方式から、勤務するフロアを固定したほうが、利用者への理解が進むのでは」との提案があり、実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数に応じて、給与を増加させたり、資格取得金の枠を設けて環境を整備している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける体制をとっていて、休日に受けた場合は研修費を支給し研修を受けやすい環境にしている。		

14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>今年度は制限なども多く、外部での同業者との交流等はほとんどなかった。</p>		
----	--	---	--	--



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が入所する上で、安心して過ごしていけるよう困っていること、不安なことを傾聴していくなかでご利用者との関係性、信頼関係を築いていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がご本人と築いてこられたことに耳を傾け、現在困っていること、不安に思っていることが少しでも改善され、ご要望に近づけられるよう関係性と信頼関係を保つことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が安心できるサービスが何であるかを傾聴しながら見極め、福祉用具など必要なサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が他入居者と、不安なく安定したコミュニケーションが継続できるよう、職員が間に入り関係性を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で面会ができない為、定期的に電話での連絡をしている。その際、ご家族に報告、相談をさせていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響でご家族と面会ができていないことから、土日等、ご家族に連絡し帰宅願望がないご利用者に関しては直接話をしていただいている。	入居時のアセスメントや家族からの情報で、利用者の生活歴や馴染みの関係を把握している。友人や知人の面会時には、居室に案内して、湯茶でもてなしている。電話・手紙の取次ぎや、携帯電話の利用を支援している。利用者に馴染みのヨーグルト、プリン、飲料の購入の支援や、家族が持参する化粧水、クリームなどの取り次ぎを行っている。趣味の編み物や塗り絵を継続している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人が孤立せず笑顔で話せる関係を築くことができる座席にし、わからないこと、出来ないことを職員が直ぐに声掛けをせず、ご利用者同士がコミュニケーションが取れるよう見守り、出来ないことがあれば、職員が関わる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様よりご連絡があれば、必要に応じてお話させて頂くが、GHでは死去・病院・次の施設に移られることが多く、現状関係は薄れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	連絡ノート、介護記録、申送り等でご利用者様の精神、生活に変化がないかどうかを確認している。3か月間隔のカンファの他、必要な時にはミーティングを行っている。	職員は、入居前に自宅や病院などを訪問して、利用者・家族から暮らし方の希望や意向を聞いている。入居後は、日頃の会話や、利用者間の会話などから思いや意向の把握に努めている。意思疎通困難な利用者には、入居後に把握した情報や、利用者の雰囲気、表情から推測し、支援に繋げている。把握した情報は、介護記録や、アセスメント表で共有してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の趣味や馴染んできた物があれば、施設で（他入居者様が不穏にならない、危険がない）可能と判断した上で、持ち込みをされている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時には、担当階のご利用者様の介護記録に目を通し、不穏、変化がある方には、寄り添うと共に話を傾聴している。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング        本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>モニタリング、介護計画書を作成する上で、ご利用者様、ご家族様と話し合い、安心・納得される計画書を作成すると同時に、カンファでの情報収集も重要になっている。</p>	<p>介護計画は、3か月ごとのアセスメントとモニタリングを基に、カンファレンスを行い、利用者・家族の要望と医療関係者の意見を反映して作成している。モニタリングは、計画作成担当者が職員の意見を踏まえて行っている。カンファレンスに出席できない職員の意見は、事前に確認して反映している。家族の要望は、計画作成担当者が電話で確認している。短期目標は6か月、長期目標は1年ごとに見直しているが、状態により随時見直している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映        日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>各ご利用者様の情報（日常の変化）を記載できるよう、介護記録があるが、記入方法が人により主観が入ることもあるので、統一していかなければならない。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本は同じであるが、今まで過ごしてこられた一人ひとりのニーズに添ってサービスができるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナで地域との関わりは出来ていない。 隣の派出所には認知症対応の施設であることを伝えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	明神台クリニックと港南台病院に毎月2回ずつ訪問診療を依頼している。 また、どちらの病院も24時間オンコール体制をとっている。	全員が、内科の2つの協力医のいずれかをかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受診している。職員や非常勤職員の看護師が、体調、服薬や、気になることなどを質問事項記入書にまとめ、診察の前に医師に渡している。診察結果は、看護師が記録し、事務所に掲示して情報共有している。眼科、皮膚科などの専門医の通院は、原則、家族が付き添っている。受診情報は、職員が聞き取り、連絡ノートや介護記録で情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回程度、看護職員が出勤しており、利用者様の日々の状態変化など報告している。 病院受診等のはかかりつけの主治医と相談している。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者様が入院された場合は2、3か月を目途にベッドを空けて再入居できる体制をとっている。入院後、著しい状態変化などがあった場合は今後についてご家族と話し合いを行っている。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は看取りのマニュアルや重度化についての同意書を作成した。 今後も重度化した場合などは提携する医師を交え今後の方向性について早い段階で話し合いをしていく。	入居時に「看取り指針」を説明し同意を得ている。看取りについての事前意思確認書も入居時に、提出してもらっている。「ターミナルケア・精神的ケア対応マニュアル」に基づき、計画作成担当者が講師となり研修を行っている。昨年度、看取りの同意を得た利用者がいた。終末期ケア計画書を作成し、医師も交えたケアカンファレンスも実施したが、容態が急変し、病院に搬送され病院で亡くなった事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各フロアーに利用者様の緊急連絡シートを作成し、早急にご家族と連絡が取れる体制としている。 急変時や事故発生時の第一報は管理者に連絡することとしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として年に2回の消防訓練を行っている。 今年度は緊急事態宣言もあり施設内での自主訓練となっている。	年2回日中想定防災訓練を実施している。新型コロナ禍で、地域住民の参加や消防署の立ち合いは実現していない。夜間を想定した訓練や、地震・水害を想定した訓練は実施していない。転倒防止対策として、家電を低い位置に設置するなどの対策を講じている。災害用備蓄品はリストを作成し、職員分も含めて3日分以上の食料と飲料水を確保している。カセットコンロなどの熱源も整備している。	日中を想定した防災訓練は実施していますが、職員の少ない夜間を想定した訓練は実施していません。年1回は、夜間想定訓練を実施することが期待されます。また、地震や水害を想定した防災訓練を実施することも期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各勤務帯の申し送りについてはなるべく利用者様のいない場所で行っている。利用者様の過ごされている食堂で行う場合は声量を配慮している。	利用者は「さん」付けで呼ぶこととしている。介護記録などは、利用者を名前ではなく部屋番号で記載している。フロアで介護記録を記載する場合は、周辺に十分配慮して行っている。また、利用者不在の居室に入室する場合も、本人に確認をとっている。管理者は、職員の会話や行動が、利用者を傷つけることがないか目配りし、気付いたことは場面やタイミングをよく考え、その場や個人面談などで、個別に指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活は利用者様の希望や訴えに配慮できるように対応している。 小さなことでもご自身で自己決定できるような配慮は行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	日常生活の中で食事の時間や入浴日などは決めさせていただいていますが、その他の時間については本人のペースや希望に沿って生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立者についてはご自身で身だしなみ等は行っているが、ダンスやクローゼットの中が散乱してしまう利用者様もいる。毎日、居室清掃時に最低限の整理整頓は行っている。		



40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援          食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備等は職員が行っている。献立についても決まっているため、毎日好みに配慮することは現状難しい。          現在は月に一回行事食を用意しておりお正月などは全利用者様がおせち料理等を召し上がっている。</p>	<p>昼食・夕食は、専門業者のレトルト食品を利用し、ご飯と味噌汁は職員が調理している。朝食は、別の専門業者の冷凍食品を湯煎して提供している。利用者は食器洗いや、テーブル・食器拭きを手伝っている。利用者の状況に合わせて、トロミ・刻み・ミキサー食を提供している。お誕生会は、おでん、カレー、恵方巻などの料理の他、手作りケーキを提供して祝っている。クリスマス会、正月などの行事の時には特別メニューを提供している。</p>	
----	----	---	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量については栄養バランスが問題ない程度に本人の希望に合わせて主食量を調整している。水分量については浮腫みなどがあり医師の指示で水分制限を行っている利用者様もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様のADLに合わせて一部介助を行っている。 また、歯科往診を月に2回行っており口腔内の清潔保持を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助者については利用者様の排泄パターンを観察し、定期的に声掛けなど行い排泄介助を行っている。	排泄は、排泄チェック表でパターンや特徴を把握し、利用者様の様子や仕草をとらえてトイレ誘導している。誘導の際は、小声で話しかけるなど羞恥心に配慮している。失敗した場合は、周りに気づかれないように対応している。夜間は、基本的には睡眠優先であるが、定時誘導など個人の特性に合わせた支援を行っている。病院からの退院時はおむつだった利用者が、支援の結果、リハビリパンツに改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師らと共に日常生活の様子や排便パターンを確認し、排便コントロールを行っている。 利用者様の状態に配慮しながら調整を随時行っている。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴については利用者様の希望する時間には対応できていない。 週2回午前中に曜日を決めて入浴している。 入浴時は各利用者様が個別で入浴できるように配慮している。</p>	<p>週2回午前中の中の入浴を基本としている。曜日で入浴者を仮決めし、当日体調などを考慮して入浴順を決めている。入浴を好まない利用者には、時間や曜日、担当者の変更で対応している。入浴しないという意思も尊重し、無理に入浴してもらうことはしない。体調の悪い利用者は、シャワー浴や足浴、清拭で対応している。利用者は、職員との会話や、入浴剤を楽しんでいる。必要に応じて同性介助にも対応している。</p>	
----	----	---	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全利用者様は個室での対応となっている。 日中、夜間共にご自身の生活習慣に配慮しており、特に消灯時間等は決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的や副作用について全て理解することは難しいが、各フロアーに薬事ファイルを置き、どのような内服を服用しているか、各自確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員の利用者様ではないが、お皿洗い、テーブル拭き、洗濯物を畳むなど利用者様のできることは職員と一緒にやるべくやっていたいしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は病院受診等以外の不要不急の外出以外はほとんどできていない。 緊急事態宣言解除後、施設の近くにある保土ヶ谷公園に職員と散歩に出掛けることはできた。	2回目の緊急事態宣言解除後に、公園への散歩を再開した。散歩には、車椅子の利用者も参加している。玄関前の駐車場で外気浴や日光浴を楽しむ利用者もいる。新型コロナ禍以前は、フードコート・回転寿司での外食、個別の買い物や、初詣、花見などで外出していた。また、家族の支援で、お墓参り、買い物、外食などに出かける利用者がいた。利用者の外出歴は経過記録で把握し、利用者ごとの外出機会に偏りがないようにしている。	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の管理はご家族様にお願いしているため施設では金銭はお預りしていない。利用者様の希望にて金銭の使用は立替という形で可能としている。 金銭ではなく物品についてはご家族に連絡し必要なものなどは用意していただいている。</p>		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様本人から要望があればご家族様にも連絡させて頂いている。個人で携帯電話をお持ちのお客様も数名いる。お正月は全利用者様のご家族に写真入りの年賀状を送付した。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共同スペースには季節に合わせた飾り物や手作りのカレンダーを掲載し、利用者様が季節感を感じられるようにしている。	リビングや廊下は、車椅子の導線が十分に確保できるスペースがある。職員が作成したカレンダーや、トイレの大きなラミネート表示などで見当識に配慮している。温度・湿度管理は、温度・湿度計を参考に職員がエアコンと加湿器を調整して行っている。新型コロナ禍で換気には十分留意している。リビングの壁には、利用者と職員が作成した、雪だるまや、お正月飾りなどの季節の貼り絵を飾り付けている。飾り付けは毎月張り替えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が楽しく穏やかに過ごせるように食事席などは利用者様同士の相性なども含めて配慮している。		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者様の居室の中の物はベッドと一部家電を除き、本人持ちの生活用品をお持ちいただいている。</p> <p>昔から使用しているタンスなど、在宅生活時から使用していたものをお持ちになる利用者様もいる。</p>	<p>居室には、ベッド、エアコン、収納、壁掛けテレビ、照明器具、カーテン、スタッフコールが備え付けられている。ぬいぐるみ、時計、タンス、椅子、机、マッサージチェアなどの馴染みの品や、家族の写真、仏壇、利用者が製作した作品、お誕生日会のメッセージカードなどの思い出の品が持ち込まれ、個性豊かな居室になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各利用者様の居室入口には名前の張り紙をし、ご自身の居室がすぐわかるようにしている。</p>		

事業所名	グループホーム ひばり苑 花見台
ユニット名	ひいらぎ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに事業所理念を掲載し職員一同共有できるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は町内会のお祭りや行事ごとはほとんど中止となっており、地域の方の交流はほとんどなかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は地域との交流ができず、運営推進会議も書面での開催を行っていたためほとんど地域貢献はできなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は二ヶ月に一回開催していますが、今年の開催は書面での開催となっている。開催報告書では施設の活動状況を報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時や不明点がある場合は電話やメールにて連絡を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	半年に一回身体拘束についての研修を行い、研修記録を提出しています。参加できなかった職員は資料をお渡しし、研修記録を提出している。また、3ヵ月に一度委員会を開催し検討会を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束についての研修と合わせて年二回の研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中には後見人制度を利用している方もいる。研修を行うまでは至っていないが、現場の職員に説明等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の契約時に料金などを含めた重要説明事項等の説明を行っている。説明後はご家族様に同意書をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時や面会時にご家族様に意見をいただき、反映できるものについては参考にしているが、今年度は面会制限等あり話し合いの場などを設ける機会が少なかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアーカンファレンスを毎月実施しており、その中で現場の業務のことやお客様の情報について意見交換している。 また行事などの事務連絡も行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数に応じて、給与を増加させたり、資格取得金の枠を設けて環境を整備している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける体制をとって、休日に受けた場合は研修費を支給し研修を受けやすい環境にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年度は制限なども多く、外部での同業者との交流等はほとんどなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用を開始する前に利用者様のアセスメントをさせていただき、入居後の不安を軽減できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を開始する前に施設見学時や利用者様のアセスメント時にご家族の要望などを伺っている。不安点についてもその都度説明させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始する前の利用者様のアセスメント時に利用者様とご家族の要望などを伺っている。その中で利用者様に合った支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の得意分野に応じて、洗い物や洗濯物を畳まれたりなど日常生活に携わることを一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時やケアプラン更新時にご家族様より要望を確認し、ケアプラン作成時に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人などの関係が途切れないように、面会などは対応させていただいていたが、今年度は制限しなければならないことも多くできないことが多かった。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士波長が合う人などは食事席などを配慮し日々の生活をしている。また、コミュニケーションなどが難しい利用者様には職員が間に入り対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後等もご家族様の希望に応じて、こちらでできる限りの相談や支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時にご家族から得た情報や、利用者様との会話の中で得た情報などをもとにケアプランを作成している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査や入居時にご家族様や利用者様に確認し生活歴などを含めた情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様のADLやその日の気持ちや体調に合わせて日々の支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアーカンファレンス時に利用者様の現状の問題点や課題などを話し合い、今後の支援方法を検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は毎日個別で記録している。日々の様子を記録することで状態変化や情報共有に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて利用者様やご家族と協力し、可能な限り対応できるよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナで地域との関わりは出来ていない。 隣の派出所には認知症対応の施設であることを伝えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	明神台クリニックと港南台病院に毎月2回ずつ訪問診療を依頼している。 また、どちらの病院も24時間オンコール体制をとっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回程度、看護職員が出勤しており、利用者様の日々の状態変化など報告している。 病院受診等のはかかりつけの主治医と相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合は2、3か月を目途にベッドを空けて再入居できる体制をとっている。入院後、著しい状態変化などがあった場合は今後についてご家族と話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は看取りのマニュアルや重度化についての同意書を作成した。 今後も重度化した場合などは提携する医師を交え今後の方向性について早い段階で話し合いをしていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各フロアーに利用者様の緊急連絡シートを作成し、早急にご家族と連絡が取れる体制としている。 急変時や事故発生時の第一報は管理者に連絡することとしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として年に2回の消防訓練を行っている。 今年度は緊急事態宣言もあり施設内での自主訓練となっている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各勤務帯の申し送りについてはなるべく利用者様のいない場所で行っている。利用者様の過ごされている食堂で行う場合は音量を配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活は利用者様の希望や訴えに配慮できるように対応している。 小さなことでもご自身で自己決定できるような配慮は行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	日常生活の中で食事の時間や入浴日などは決めさせていただいていますが、その他の時間については本人のペースや希望に沿って生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立者についてはご自身で身だしなみ等を行っているが、タンズやクローゼットの中が散乱してしまう利用者様もいる。毎日、居室清掃時に最低限の整理整頓は行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等は職員が行っている。献立についても決まっているため、毎日好みに配慮することは現状難しい。 現在は月に一回行事食を用意しておりお正月などは全利用者様がおせち料理等を召し上がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量については栄養バランスが問題ない程度に本人の希望に合わせて主食量を調整している。水分量については浮腫みなどがあり医師の指示で水分制限を行っている利用者様もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様のADLに合わせて一部介助を行っている。 また、歯科往診を月に2回行っており口腔内の清潔保持を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助者については利用者様の排泄パターンを観察し、定期的に声掛けなど行い排泄介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師らと共に日常生活の様子や排便パターンを確認し、排便コントロールを行っている。 利用者様の状態に配慮しながら調整を随時行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴については利用者様の希望する時間には対応できていない。 週二回午前中に曜日を決めて入浴している。 入浴時は各利用者様が個別で入浴できるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全利用者様は個室での対応となっている。 日中、夜間共にご自身の生活習慣に配慮しており、特に消灯時間等は決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的や副作用について全て理解することは難しいが、各フロアーに薬事ファイルを置き、どのような内服を服用しているか、各自確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員の利用者様ではないが、お皿洗い、テーブル拭き、洗濯物を畳むなど利用者様のできることは職員と一緒にやるべくやっていたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は病院受診等以外の不要不急の外出以外はほとんどできていない。 緊急事態宣言解除後、施設の近くにある保土ヶ谷公園に職員と散歩に出掛けることはできた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はご家族様にお願いしているため施設では金銭はお預りしていない。利用者様の希望にて金銭の使用は立替という形で可能としている。 金銭ではなく物品についてはご家族に連絡し必要なものなどは用意していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様本人から要望があればご家族様にも連絡させて頂いている。個人で携帯電話をお持ちのお客様も数名いる。お正月は全利用者様のご家族に写真入りの年賀状を送付した。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共同スペースには季節に合わせた飾り物や手作りのカレンダーを掲載し、利用者様が季節感を感じられるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が楽しく穏やかに過ごせるように食事席などは利用者様同士の相性なども含めて配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の居室の中の物はベッドと一部家電を除き、本人持ちの生活用品をお持ちいただいている。昔から使用しているタンスなど、在宅生活時から使用していたものをお持ちになる利用者様もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者様の居室入口には名前の張り紙をし、ご自身の居室がすぐにわかるようにしている。		

事業所名	グループホーム ひばり苑 花見台
ユニット名	はなみずき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに事業所理念を掲載し職員一同共有できるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は町内会のお祭りや行事ごとはほとんど中止となっており、地域の方の交流はほとんどなかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は地域との交流ができず、運営推進会議も書面での開催を行っていたためほとんど地域貢献はできなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は二ヶ月に一回開催していますが、今年の開催は書面での開催となっている。開催報告書では施設の活動状況を報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時や不明点がある場合は電話やメールにて連絡を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	半年に一回身体拘束についての研修を行い、研修記録を提出しています。参加できなかった職員は資料をお渡しし、研修記録を提出している。また、3ヵ月に一度委員会を開催し検討会を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束についての研修と合わせて年二回の研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中には後見人制度を利用している方もいる。研修を行うまでは至っていないが、現場の職員に説明等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の契約時に料金などを含めた重要説明事項等の説明を行っている。説明後はご家族様に同意書をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時や面会時にご家族様に意見をいただき、反映できるものについては参考にしているが、今年度は面会制限等あり話し合いの場などを設ける機会が少なかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアーカンファレンスを毎月実施しており、その中で現場の業務のことやお客様の情報について意見交換している。 また行事などの事務連絡も行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数に応じて、給与を増加させたり、資格取得金の枠を設けて環境を整備している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける体制をとって、休日に受けた場合は研修費を支給し研修を受けやすい環境にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年度は制限なども多く、外部での同業者との交流等はほとんどなかった。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていることを確認し施設で行える援助についてどうしていったらいいか話し合いを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの要望を伺い、施設でどこまで対応出来るかを話し合い、ご本人様に添った支援ができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の思いとご本人の今の状態が違うこともあり、ご家族の要望を受け入れつつ医療とも相談し、GHの中でできることを行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来ないところをお手伝いしていくことを前提に、出来る事は行って頂き役割を持ち過ごせるよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都度、ご本人の思いをご家族に伝え、どうしていったらよいかを相談しながら、ご家族様にもかかわって頂けるようお伝えしている。（今はコロナで難しい状況である）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で現状、面会・外出できていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護職員が利用者様全員（身体介護・精神的介護のちがいがあるが）一人ひとり同等に接していれば、利用者様も困っている方に対して手を差し伸べてくださる。 お互いに誰もが助け合える介護を目指している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様よりご連絡があれば、必要に応じてお話させて頂くが、GHでは死去・病院・次の施設に移られることが多く、現状関係は薄れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員が利用者様から得た情報をご家族に伝え解決することはすぐに伝え、その他はカンファ・フロアミーティングで検討し、ご本人の意向に添うよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのご利用者様の馴染みの暮らし方、生活環境など施設で可能であることはそのまま継続していただけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する利用者様の体調・気持ちの揺れなど、職員が情報を共有し、支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアミーティング・3ヶ月ごとの担当者会議・必要に応じたカンファ・ご家族を交えたカンファで話し合いを行い、支援方法を検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有しているが、情報が途切れることも多く、今後の課題となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本は同じであるが、今まで過ごしてこられた一人ひとりのニーズに添ってサービスができるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナで地域との関わりは出来ていない。 隣の派出所には認知症対応の施設であることを伝えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	明神台クリニックと港南台病院に毎月2回ずつ訪問診療を依頼している。 また、どちらの病院も24時間オンコール体制をとっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回程度、看護職員が出勤しており、利用者様の日々の状態変化など報告している。 病院受診等のはかかりつけの主治医と相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合は2、3か月を目途にベッドを空けて再入居できる体制をとっている。入院後、著しい状態変化などがあった場合は今後についてご家族と話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は看取りのマニュアルや重度化についての同意書を作成した。 今後も重度化した場合などは提携する医師を交え今後の方向性について早い段階で話し合いをしていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各フロアーに利用者様の緊急連絡シートを作成し、早急にご家族と連絡が取れる体制としている。 急変時や事故発生時の第一報は管理者に連絡することとしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として年に2回の消防訓練を行っている。 今年度は緊急事態宣言もあり施設内での自主訓練となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各勤務帯の申し送りについてはなるべく利用者様のいない場所で行っている。利用者様の過ごされている食堂で行う場合は音量を配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活は利用者様の希望や訴えに配慮できるように対応している。 小さなことでもご自身で自己決定できるような配慮は行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	日常生活の中で食事の時間や入浴日などは決めさせていただいていますが、その他の時間については本人のペースや希望に沿って生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立者についてはご自身で身だしなみ等を行っているが、タンズやクローゼットの中が散乱してしまう利用者様もいる。毎日、居室清掃時に最低限の整理整頓は行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等は職員が行っている。献立についても決まっているため、毎日好みに配慮することは現状難しい。 現在は月に一回行事食を用意しておりお正月などは全利用者様がおせち料理等を召し上がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量については栄養バランスが問題ない程度に本人の希望に合わせて主食量を調整している。水分量については浮腫みなどがあり医師の指示で水分制限を行っている利用者様もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様のADLに合わせて一部介助を行っている。 また、歯科往診を月に2回行っており口腔内の清潔保持を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助者については利用者様の排泄パターンを観察し、定期的に声掛けなど行い排泄介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師らと共に日常生活の様子や排便パターンを確認し、排便コントロールを行っている。 利用者様の状態に配慮しながら調整を随時行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴については利用者様の希望する時間には対応できていない。 週二回午前中に曜日を決めて入浴している。 入浴時は各利用者様が個別で入浴できるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全利用者様は個室での対応となっている。 日中、夜間共にご自身の生活習慣に配慮しており、特に消灯時間等は決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的や副作用について全て理解することは難しいが、各フロアーに薬事ファイルを置き、どのような内服を服用しているか、各自確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員の利用者様ではないが、お皿洗い、テーブル拭き、洗濯物を畳むなど利用者様のできることは職員と一緒にやるべくやっていた。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は病院受診等以外の不要不急の外出以外はほとんどできていない。 緊急事態宣言解除後、施設の近くにある保土ヶ谷公園に職員と散歩に出掛けることはできた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はご家族様にお願いしているため施設では金銭はお預りしていない。利用者様の希望にて金銭の使用は立替という形で可能としている。 金銭ではなく物品についてはご家族に連絡し必要なものなどは用意していただいている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様本人から要望があればご家族様にも連絡させて頂いている。個人で携帯電話をお持ちのお客様も数名いる。お正月は全利用者様のご家族に写真入りの年賀状を送付した。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共同スペースには季節に合わせた飾り物や手作りのカレンダーを掲載し、利用者様が季節感を感じられるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が楽しく穏やかに過ごせるように食事席などは利用者様同士の相性なども含めて配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の居室の中の物はベッドと一部家電を除き、本人持ちの生活用品をお持ちいただいている。昔から使用しているタンスなど、在宅生活時から使用していたものをお持ちになる利用者様もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者様の居室入口には名前の張り紙をし、ご自身の居室がすぐわかるようにしている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ひばり苑花見台

作成日 令和3年6月

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所理念 運営理念	事業所理念を分かりやすいものへ見直しする。 職員が共有できる理念の構築を行います。	会議などの中で話し合いを行い、代表者や職員などを交えて検討していく。	6ヵ月
2	35	災害対策	夜間想定防災訓練を行います。	年2回の防災訓練の中に夜間想定訓練を行う。	6ヵ月
3	2	地域との交流	地域との交流を増やしていく。 コロナ終息後は自治会の行事などに参加していきます。	自治会などと連絡を取り、少しずつ交流を行う。	12ヵ月
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。